



9月の行事予定

- 5日(火) そら組キャンプごっこ
- 7日(木)～8日(金) そら組キャンプ
(そら組がさくらが丘保育園、さくらんぼ保育園と一緒に、国立吉備青少年自然の家に1泊2日のキャンプに行きます。)
- 11日(月) 内科検診
- 19日(火) 運動会おひろめ会
- 20日(水) 誕生会
- 22日(金) 避難訓練
- 27日(水) 交通安全教室(そら組)

※行事は変更する場合があります。ご了承ください。

10月の行事予定

- 4日(水) 運動会リハーサル
- 14日(土) 運動会
- 15日(日) 運動会予備日
- 16日(月)～19日(木) 個別懇談
- 19日(木) 誕生会
- 20日(金) 健脚活動③
- 23日(月) 避難訓練
- 23日(月)・25日(水) 入園見学会
- 24日(火) 豊田小交流会(そら組)
- 26日(木) 歯科検診
- 27日(金) そら組親子熊山登山
- 30日(月) ほし組お泊り保育説明会



やまびこだより

社会福祉法人岡山子ども協会 とよた保育園

赤警市松木 549 TEL 995-0244

令和5年9月1日発行

302号



職員紹介&いいことさがし

今月は仕事がすばやく、とても丁寧なこの2人です。見習いたいです。

小林 和美 (保育補助)

- ① 着物の着付け
- ② ライブに行くこと
- ③ とよた保育園で働けて幸せです。

- ① 特技
- ② 趣味
- ③ ひとつこと

↓お互いのいいところを伝え合っています↓

渡部 加奈 (はなゆき組)

- ① 道に迷うこと
- ② 登山
- ③ 登山が趣味ですが、通っている整骨院の先生からは「筋力がなさすぎです」と毎回叱られます…。どなたか、いい筋トレ方法を教えてください。

こちらが声をかける前に、細かいところまで気づいては「〇〇しときますね」とときばき動いてくださる小林さん。まさに、とよた保育園の縁の下の力持ちです。(渡部より)

いつも素敵な笑顔で元気いっぱい、子どもたちとのやりとりを見ていると心が和んで幸せな気持ちになります。素敵な優しい渡部さんです。(小林より)

～みんなで子どもを見守る～ 架け橋プログラム

絵本を見る前に手あそびをしてもらったよ

保育園の生活はどうでしたか？



先月に引き続き、小学校の先生方が来てくださり、子どもたちと一緒に過ごしていただきました。恥ずかしそうにする子もいましたが、子どもたちもすっかり慣れていました。

園での生活を見ていただいた後、お互い大切にしていることや小学校に向けてのことなど意見交換をしました。

お知らせ

9月より齊藤歩が児童発達支援・放課後等デイサービスかえでの家(とよた保育園内)に異動になります。よろしくお願いいたします。



とよた保育園ホームページ URL とQRコード
<https://toyota.okayamakodomokyoukai.jp>



大切にしたいこと

つくしグループ



今私たちが子どもに伝えたいと思うことは、誰に対してもやさしい存在であってほしいということです。0歳から6歳までの低年齢の子どもたちの生活の場である保育園では、子ども同士および子どもと大人の間を、あたたかくそしてやさしい存在としています。そのためには何を大切にしていけるべきか考えながら保育しています。

『変化を楽しみながら育てる』

つくしの部屋には、たくさんの生き物がいます。カブトムシ、メダカ、オタマジャクシです。保育者が餌をあげようとすると「やりたい」という声がたくさんあり、毎日一緒に世話をしています。中でもオタマジャクシは、「何を食べるのかな？」という疑問から、子ども同士の情報を聞いてみたり、園内にある図鑑を探し、調べたのですがみつからず。保育者がパソコンで調べると“ごはん、パン、鯉節、煮干し”とありました。子どもと早速給食室へ行き「鯉節ください」ともらい、食べるかどうかしばらく観察していました。するとオタマジャクシはクルクルと回転しながら食べることやおたまじゃくしの口が小さいことを発見。鯉節をそのままあげていたので子どもたちと「次は小さくした方がオタマジャクシが食べやすいかもしれないね」と話をしました。

今はオタマジャクシから手と足が生え、しっぽもなくなってきて、カエルになってきています。身体の変化する過程も観察しながら世話をしています。生き物の命の尊さや子どもが疑問に思ったことを一緒に図鑑を見ることで調べることの面白さを知り、学ぶことができる時間を大切にしています。



はなゆき組



おかえりなさい



にじ組

『いってらっしゃいとおかえりなさい』

法人独自の人間力を高める研修で副園長と、にじ組担任が北海道へ行きました。子どもたちに「北海道というすごく遠い所に行くよ」と伝えると「いってらっしゃい」と送り出してくれた子どもたち。中には「気をつけてね」と思いやりの言葉をかけてくれる子もいました。年齢2歳にしてこのような言葉が出るとは思わず、感動したのが印象的です。1週間の時を経て岡山へと帰還し、久方ぶりに子どもたちとの再開を果たすと、「おかえりなさい」とにじ組全員で製作した“おかえりなさいポスター”を持ってお出迎えしてくれました。「いってらっしゃい」「いってきます」、「おかえりなさい」「ただいま」。あいさつで始まり、あいさつで終わる。年齢、人種関係なく、人と人との関わりの中であいさつは誰とでもできる一番最初のコミュニケーションツールです。私たち大人から率先してあいさつをすることで、子どもたちも自然とあいさつができるように身につけていきます。普段の生活の中でも人との関わり、社会性につながる経験を大切にしています。



『生き物と一緒に過ごす経験』

ゆき組室内で8月から金魚を飼い始めました。箱に入った金魚の赤ちゃんをじっと見つめ、興味津々の様子。「赤」や「小さい」など、気づいたことを指さしや言葉で伝え合っています。言葉だけではなく、友だちと「金魚がいるね」と声が聞こえてくるような表情で、仲良く顔を見合わせる姿もありました。

普段からあそびや、絵本を通して生き物を見てきましたが、育てることは初めての経験です。これから一緒に金魚を育てる中で、保育者は優しくあたたかな気持ちをもってような声かけを大切にしていきます。

たんぽぽグループ



『手伝う』

夏になり、水あそびやプールが子どもたちのあそびのメインになっています。「今日は、水あそびするから部屋に入ろう」と声をかけると早く水あそびがしたいと急いで片付けをし部屋に入ってきます。いざ、プールバックを持って来てどろんこ服に着替える用意開始しますが、ビニール袋をプールバックの取っ手に結ぶことができず困っているAさんがいました。「どうするのかな」と様子を見ながら見守っているとBさんが「教えてあげようか？」と側へ行き「こことこ持って」と保育者が子どもに話す言い方で丁寧に伝えていました。友だちができないことを全てしてしまうのではなく、やり方を伝えようとし、友だちができるようになるためにどうしたらいいのか考えて声をかけている姿にも驚きました。保育者が助けることは簡単なことかもしれませんが大人が見守ることで、子ども同士で相手の困りに気づき、助け合える環境を作ることも大切にしています。

